

助成年度：平成 10 年度

[所属] 静岡大学 理学部

[役職] 助教授

[氏名] 塚越 哲 (他計 2 名)

[課題]

小櫃川河口干潟環境の記載と過去 10 年間の経年変化の観測

－貝形虫類・有孔虫類を素材として－

[内容]

千葉県小櫃川河口干潟を調査地として、貝形虫類と有孔虫類の種について、分布が調査された。干潟内の前浜、後浜、干潮クリーク塩水沼などから 17 地点が選定され、表層堆積物を 2 ヶ月毎に定量採取し、各分類群の個体数が計測された。年間調査の結果、各分類群の干潟内の分布が捉えられると同時に、個体数や分布場所に季節変化と見られる動態が確認された。

貝型虫類は環境勾配に沿った群集組成の変化をみせ、多くの分類群では一年を通して安定していた。また、故小杉正人博士による 10 年前の調査結果との比較から、10 年の間にその分布を大きく変えた分類群も一部確認されたが、環境勾配に沿った群集組成の変化は、経年変化においても安定していることが確認された。各々の群集の優占種は環境指標として有効であり、後浜の環境指標として *Ishizakiella miurensis*、*Loxconcha* sp.1 を、前浜の指標種として *Loxoconcha pulchra*、*Perrisocytheridea?japonica* が各々提示された。

有孔虫類は貝型虫類に比較して産出個体数の季節的変化が大きく、環境勾配に沿った群集組成の変化は明確ではない。また、生体と遺骸との間に産出頻度、産出地点に大きな差異があることが分かった。その中で、前浜には *Elphidium kaneharai* が寡占する季節、その他に *Haynesina* sp. が多産する季節、ほとんど生体が確認されない季節が確認された。後浜には *Ammonia beccarii* formal、*Haynesina* sp.、*Valvulineria hamanakoensis* と膠着質殻有孔虫によって代表される群衆の分布が見られた。

干潟において貝形虫類は塩分変化の小さい環境ほど種多様性が高く、塩分変化の大きい環境ほど種多様性が低い。これに対し有孔虫類はその逆の傾向を持つことがわかった。